

# 札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会  
札幌市中央区大通西 19 丁目  
札幌市医師会館内

平成 30 年度全国医師会  
勤務医部会連絡協議会参加報告

## 平成 30 年度全国医師会 勤務医部会連絡協議会に参加して

メインテーマ：明日の勤務医の働き方を考える  
～西洋医学発祥の地長崎からの提言～

会長 土田 哲人

平成 30 年 11 月 3 日長崎市にて上記会議が開催された。ここ数年の中心的なテーマとなっている「勤務医働き方改革」について現在の取り組みと今後の在り方について積極的なディスカッションが繰り広げられた。

医師の具体的な勤務体系・残業時間規制の在り方について現在、厚生労働省「医師の働き方改革に対する検討会」において議論中であるが、すでに 2024 年 4 月が運用の X-DAY となることが決まっている。しかし実際には、労務時間管理、36 協定を明確化し実施している病院は 6 割程度で未だ認識不足と言わざるを得ない現状である。さらに、長崎県における救急医療、離島および過疎地の医療の現状と勤務医の実態が報告され、各種の取り組みを開始しているにもかかわらず未だ想定される目標には程遠い状態であることが示された。この点で特に「労働時間の上限」と「応召義務」のどちらもが成立するためにはどうすべきかが議論された。労働時間については、かねてからチーム制の導入、職場における時間外を含めた各種手当の導入、長時間勤務者のヒアリング実施、および働き方改革委員会の設置を行っている施設の紹介があった。また「自己研鑽」は医師において必須のものであり、その在り方（勤務の一部である）とサポートの明確化の必要性が述べられた。先進国のなかで応召義務を法律化しているのが日本だけであり、その定義の解釈についても現状のままでよいのか疑問を呈する意見も述べられた。

今回特に感銘を受けた発表として 2 つの大学です

でに取り組みを始めている女性医師勤務に対する改革が上げられる。長崎大学メディカル・ワークライフバランスセンター 伊東昌子教授は、働き方改革の要点として、残業時間・余暇の取り方、勤務形態の取り方がゴールなのではなく、未来に対する自己実現の手段として考えるべきと述べている。育児・介護等も含め長期にわたる目標設定が必要なこと、そのために女性リーダー育成プログラム、学内保育園（時間外も対応可能）、学内学童保育実施、介護コンシェルジュによる個別相談、および復職時のトレーニングを行っている。岡山大学地域医療人材育成講座 片岡仁美教授は、タスクシェアとタスクシフティングにより仕事復帰しやすい職場環境づくりが必要であると述べている。復職においては、女性支援枠としての財源を確保し、5 人チームの 5 人目ではなく 6 人目（時短を含め）として勤務を始めることで現場復帰が容易となり、結果としてチーム全体の負担軽減と戦力アップになることを示した。この制度を用いた女性医師の約 6 割が大学を去った後も地域医療で勤務を継続できているとのことである。

なお、今回特別企画として「長崎の医学史」のレクチャーが生まれ、シーボルト・ポンペの生涯と我が国の西洋式医学・医療の発展の歴史の一端に触れることができた。

最後に「ながさき宣言」を採択し閉会となった。

（札幌南一条病院）



## ながさき宣言

我が国の近代西洋医学は 1857 年に来日したオランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトによりこの長崎の地にもたらされた。ポンペの「医師は自らの天職をよく承知していなければならぬ。ひとたびこの職務を選んだ以上、もはや医師は自分自身のもではなく、病める人のものである」という言葉は長崎大学医学部建学の基本理念として今に伝えられている。この言葉に示されている医師としてのモラル、使命感が我が国の医療を支えてきたといっても過言ではないと思われる。

しかし昨今の「働き方改革」においてはこのような医師の思いが考慮されずに、労働者としての医師の側面のみが強調されて進められている。このままでは「働き方改革」によって救急医療現場の混乱、病院機能の低下などをきたし、地域医療の崩壊を招くことが危惧される。我々は今回の改革において、勤務医が高いモチベーションを持ち続け、地域医療の発展に向けてこれまで以上に貢献できることを願って、次のとおり宣言する。

- 一. 長時間労働の是正は重要だが、その運用に関しては医師の特殊性に十分に配慮することを望む
- 一. 働き方改革において研修医等の若手医師への教育が萎縮することのないこと、研修医等の若手医師の学習の機会を確保することを望む
- 一. 勤務医の過重な勤務実態を広く周知することにより、国民全体の理解が深まることを期待する

平成 30 年 11 月 3 日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・長崎


 所 感

## 北海道胆振東部地震 ～ブラックアウトを経験して

幹事 川田 将也

【はじめに】

2018 年 9 月 6 日午前 3 時 7 分、最大震度 7 の北海道胆振東部地震が発生し、その後長時間にわたるブラックアウトを経験した。病院における地震・停電対策や社会的なまじめな考察は別項に譲るとして、一市民としての生活目線で気づいたことを思いつくままに述べてみたい。なお被害に遭われた方が多数いらっしゃ

る中で不謹慎な内容がありましたらお許し願います。

【ライフライン】

やはり真夜中の停電は衝撃的であった。我が家は古いマンションだったため水道もすぐに止まった。幸いガスは通じていたので、調理、暖房などは可能であったが、オール電化の家も多く苦労されたと聞く。太陽光発電や自家発電機のあるご家庭がうらやましく感じられた。

【情報】

地震の直後にはテレビをつける習性があるが全く見られなかった。ラジオは用意していなかった。スマホが重要な情報源であったはずだが充電が不十分で連絡用に電源が切れると困ると思って使えなかった。ちなみに自分のスマホは古い機種で 1 日 2 回充電が必要なほど充電がへばっていた。地震後に買い替えた。コンビニには行列ができて飲食物はあつという間になくなったが、実は乾電池やモバイル充電器の方が真っ先に売り切れていた。

【キャンプ道具】

もともとキャンプの予定があり、ちょうどキャンプ道具が家の中にあった。ヘッドランプは、ゴムバンドで頭にライトを固定できて両手がフリーとなる。停電時作業をするにはピッタリであった。キャンプ用に飲みものを大量に買ってあった。屋外で簡単に食べられる食糧もあった。クーラーボックスは後述する冷蔵庫の代わりとなった。食器や防寒具もある。万が一、避難所等に行く場合でも短期間であれば何とかかなりそうであった。とある家庭では、カセットガスコンロで調理をし、さらに家の中でテントを張り、寝袋で寝たそうである。小さい子供もいたが、地震～停電を逆手にとり不安な時期をやり過ごしたようである。キャンプ道具は災害時に非常に役に立つことがわかった。

【プチパーティー】

大停電で特に困ったものの一つが冷蔵庫・冷凍庫である。もう何時間か早く復電できればと思うが一部の食材は早めに消費せざるを得なくなった。地震～復電後の週末は外出を控え家族揃って食事をした家庭が多かったと思われるが、消費を急ぐ食材を使って思いがけずのプチパーティーをしたという話も多く聞かれた。

【おわりに】

前日に病院行事の宴会があり酩酊していた。激しい

揺れで目を覚ましたが揺れの後半でやっと気づいたようであった。地震が起きる前からしばらくの間、事情があって家族とは離れていた。一人目を覚ましたがすでに電気がつかなく真っ暗だった。懐中電灯で照らすと本棚と整理棚が倒れていた。恥ずかしながら軽くパニックになり過呼吸になった。酒が原因なのかどうか分からないがトイレで嘔吐した。結果的に特にケガもなく大きな被害もなく済んだが、それでも1~2週間は落ち着かない日々を過ごした。復電するまでは家に帰ることができず病院に泊まった。その後も余震におびえ電気を点けたまま居間で就寝した。しかし世の中には、もっと大きな災害に遭い、もっと大きな被害に遭われた方がたくさんいる。地震の数日前に台風で大木が倒れたりJRが止まったりしていたことは記憶の彼方である。情報過多の時代、記憶の風化は早い。できるだけ記憶の新しいうちにいつか起きるかもしれない何かのために備えを進めておきたい。

(斗南病院)



## 禁酒その後、次は車？忘年会？

幹事 南雲 淳

前回はお酒を止めたことをお伝えしたのですが……実は、1年ほどで挫折してしまいました。言い訳をすると、下垂体腺腫の手術をして、無事に治して頂いたのが嬉しくて、つついとお祝いのつもりで……がだんだん時折飲むようになり、今や完全復帰であります。そもそも、禁酒したのは、昨今では社会悪とも言えるのに、テレビのCMは酒類ばかりで、そんな矛盾した世の中に抵抗したつもりでした。また、酒は本当に美味しいのか？ただ習慣になっているだけだ、と考えていました。しかしながら、しばらく止

めた後に飲んでみて判ったことは「やっぱり酒は美味しい」ということです。それは「アルコール」の効果なのだと思います。アルコールの「揮発性」が酒と食べ物との味や香りをお互いに引き立たせているように思います。だからノンアルコールは飲んでも味気ないのでしょう。

ご都合主義というか身勝手な発言ですが、それでも酒はこの世の中に存在しなくても良い、あるいは存在しないほうが良いもの、という認識は今でも変わらず持ちながら、戒めを持って飲むことにしています。

さて、禁酒を挫折した今、止めたものの第二弾は、車です。車は売り払い、現在電車通勤の毎日です。車を止めた理由は、「安全に運転する自信がなくなった」ということです。皆さん、今日の自分の運転を思い返してみてください。停車している車を車線を変えて抜かした時、子どもや老人が飛び出していたら轢いていたのではないですか？交差点で右折する時に、対向車、歩行者、加えてそこにびゅーっと侵入してくる自転車……なんてことを、とくに夜や雨の日に瞬時に把握出来ていますか？私は家に着いた時、その日の自分の運転が100点満点だと思えることはほとんどありませんでした。それでも事故らなかったのは、たまたまそこに人が居なかったからだけなのでしょう。多くの凡人にとって事故るか事故らないかは単なる確率論なのでしょう。生理学的に標準と言える判断能力で安全に運転するとすれば停車中の車を追い越すときには減速して最徐行し、交差点への進入も最徐行しなければ(確か法律上もその筈ですが)ならないと思います。でも、実際にそうすればクラクションを鳴らされたり、後ろの車が先に右折したり、嫌がらせにストレスに追い抜かされたりします。そのような訳で、「自分は運転するには神経がまともすぎる」ということで車の運転を止めることにしました。お酒のこともあるので何ですが、今のところ、事故の心配が要らず気が楽ですし、これからあと20年車を持たなければ、税金、保険、車検、維持費や買い換え等を考えるとかなりな額を老後資金に当てられます。寒い朝のひんやりしたシートで凍えるより、さっさと歩いて体が暖まる方が楽にも思います。

さて、最近止めたものとして、というかもう既に数年前から自ら当直を当てたりして出ていませんが、忘年会を遠慮させてもらっています。忘年会……嫌

いなんです。何が嫌かって、やりたくないゲームをしたり、要らない景品をもらったり、男の裸を見せられたり、芸をやらされたり、やかましかったり・・・という束縛感がです。

先日、某テレビ番組で忘年会を取り上げていて、今や忘年会はパワハラにならぬように配慮すべき、とのことで、上司が若い人に説教したりするのを避け、席順なども若い人だけの席にしたりしている、といった内容でした。でも私に言わせれば、それよりも、出席や芸を強制するような、忘年会そのものがパワハラになり得るのではないかと、思っています。

とは言え・・・昨年末の忘年会の翌日には若い先生達が「出し物が受けた」とか「とっても楽しかった」と満足げに話していました。好きな人は好きなようですね。

新しい教育として、子ども達が意見の言える人間になるように、これからはグループワークを中心とした指導をすることになる、とニュースで言っていました。確かに「これはおかしくはないか？」と言う人は少ないと思います。身近なことのみならず、仕事にも、政治にも、原発にも。

(手稲溪仁会病院)

## 「札幌市勤務医協議会 ニュース」の閲覧について

「札幌市勤務医協議会ニュース」を札幌市病院協議会のホームページに掲載しております。

過去のバックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

札幌市病院協議会ホームページ URL

<https://www.sapporo-byoinkyo.jp/>



## ご 案 内

### 札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会 合同講演会の開催について

例年開催しております『札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同講演会』を下記のとおり開催いたします。

多数のご参加をお待ちしております。

記

- ・ 日 時：平成31年2月19日（火） 午後6時30分
- ・ 場 所：札幌市医師会館 5階ホール（札幌市中央区大通西19丁目）
- ・ 演 題：『ヒトの遺伝子改変はどこまで許されるのか、ゲノム編集の光と影』
- ・ 講 師：北海道大学 安全衛生本部 教授 石井 哲也 先生
- ・ 主 催：札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会・札幌市医師会